

戦略的プロジェクト研究推進事業

「ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発」

研究概要図

中課題番号	18065180
中課題名	広域の農地・作物情報の調査分析に掛かる作業時間が1/2以下になるソフトウェア等の開発
研究実施期間	平成30年度～平成34年度（5年間）
代表機関	株式会社オプティム
研究開発責任者	友廣 一雄
研究開発責任者 連絡先	TEL：0952-41-4277
共同研究機関	佐賀市 佐賀市農業再生協議会 佐賀県農業試験研究センター 佐賀県農業技術防除センター 佐賀県佐城農業改良普及センター 佐賀農業共済組合 佐賀県土地改良事業団体連合会
農林水産省内 本事業担当	農林水産技術会議事務局研究統括官（生産技術）室 代表：03-3502-2549（内線5840）

ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化 及び利活用技術の開発

農業政策に関わる様々な業務(作付け確認、圃場境界の測量、農業共済、被災確認)を、ドローン等のロボティクス技術とAI技術を導入することで効率化し、H34年度までに、業務時間の半減を実証する。

①「圃場作物の自動判別による作付け確認のための調査資料作成支援ソフトウェアの研究開発」



現状



台帳システム



現状

②「圃場境界復元の測量手法の確立と測量図面の作成支援ソフトウェアの研究開発」



ドローン (マルチコプター)

オルソ画像化し、測量図面を作成

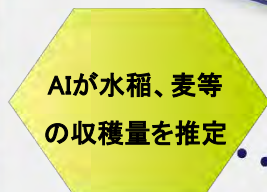


③「被災農場における水稲、麦等の収穫量の推定による農業共済査定等に必要資料作成支援ソフトウェアの研究開発」

固定翼型ドローン (OPTiM Hawk)



現状



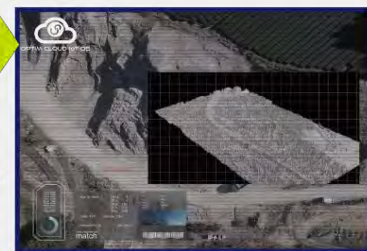
ウシカ発生状況 (ドローン撮影) H29年度

④「農地、農業用施設の被災箇所の抽出並びにその被災面積の特定及び災害額の自動算定に係る支援ソフトウェアの研究開発」



ドローン (マルチコプター)

測量、三次元化し被災状況を把握



現状